

## 救急外来における処置時の鎮痛鎮静に対する多施設前向き観察研究

### 研究の目的・意義

救命救急センター外来では、骨折・脱臼の整復や、不整脈に対する電気ショック（同期下カルディオバージョン）など、患者様に苦痛を伴う処置が日々行われています。こうした処置に伴う苦痛や不安を取り除くにあたり、鎮痛薬や鎮静薬が用いられる場合があります。これらの薬剤は、呼吸を止めたり血圧を下げたりする副作用を生じる場合があります、使用にあたっては注意が必要です。しかし、本邦では薬剤の使用は多くの場合処置に携わるそれぞれの医師の経験に基づいており、これまで、処置時の鎮痛・鎮静が実際に適切かつ安全に行われているかどうかを、まとめたデータはありませんでした。今回の研究は、当院救命救急センター外来における処置時の鎮痛・鎮静の安全性の確認に加え、それぞれの処置に適切な薬剤について検討することを目的としています。

### 研究の実施体制

- 研究責任者：本間 洋輔（東京ベイ浦安市川医療センター 救急集中治療科 医長）
- 分担研究者：高瀬 啓至（仙台市立病院 救急科 医長）、深野 賢太郎（自治医科大学付属さいたま医療センター 麻酔科 医員）、野間 貴之（大阪警察病院 ER・総合診療センター 医員）、岡田 信長（京都府立医科大学 救急医療学講座 大学院生）、林 実（福井県立病院 救命救急センター 医長）、下里 アキヒカリ（健和会大手町病院 麻酔科 部長）、乗井 達守（University of New Mexico Assistant Professor of Emergency Medicine）

### 研究の方法

平成 29 年 8 月 1 日以降に救急外来を受診された患者様の中で、何らかの検査・処置にあたって鎮痛・鎮静薬を使われる方の診療録及び処置時に使用されたモニターを調査します。診療録及び処置時に使用されたモニターから一部の情報を抽出し、複数の医療機関で共有できるようにインターネット上に登録します。情報はインターネット上への登録の段階で匿名化し、取り扱うデータからは一切個人の特定ができないよう配慮致します。

本研究への参加で、対象となる方やご家族に直接何らかの利益が生じることはありません。一方で、不参加を表明された場合に不利益を被ることもありませんので、対象となる患者様に当たっては、本研究の参加を拒否されることも自由です。

データの抽出期間は平成 29 年 8 月 1 日～令和 4 年 5 月 31 日までです。ご質問などがございましたら、この期間内に下記連絡先までお問合せください。

連絡先：仙台市立病院 救急科 高瀬 啓至  
電話：022-308-7111